

令和6年度 全国学力・学習状況調査

香取市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の名称 令和6年度全国学力・学習状況調査

3 調査の対象

- (1) 小学校調査 小学校第6学年
- (2) 中学校調査 中学校第3学年

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査【国語、算数・数学】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

[児童生徒に対する調査]

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

[学校に対する調査]

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査実施日 令和6年4月18日(木)

6 調査結果

(1) 本体調査の結果から

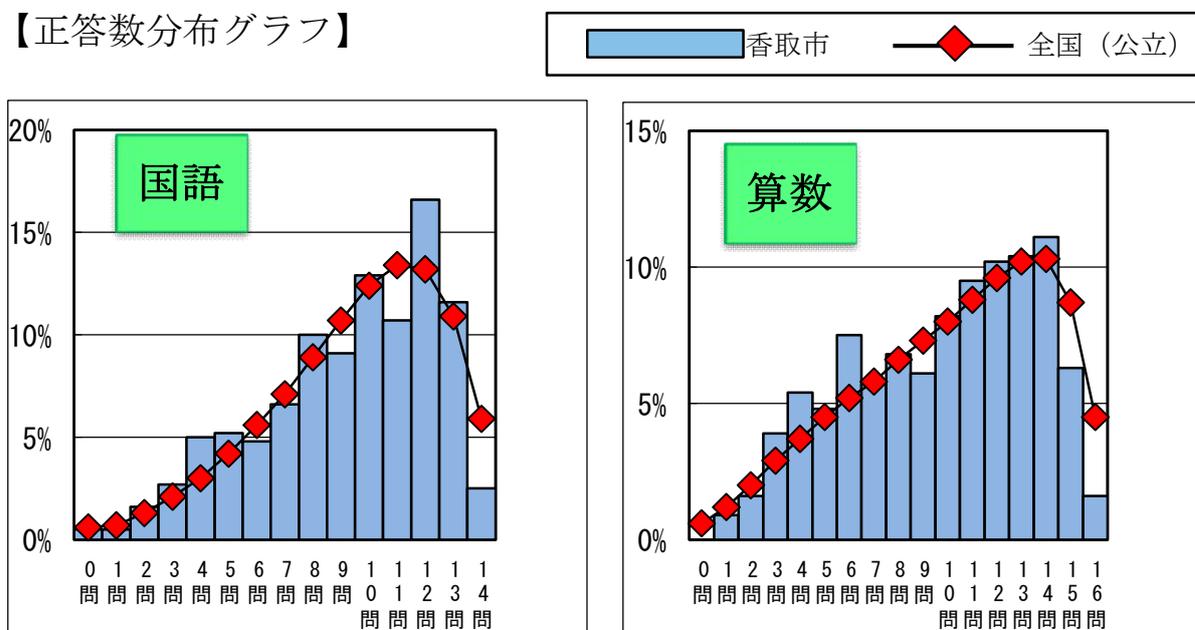
小学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	66	67	67.7
算数	61	63	63.4

【正答数分布グラフ】



平均正答率では、国語・算数ともに千葉県（公立）及び全国（公立）の結果を下回っていますが、その差はわずかでありほぼ同程度といえます。

正答数分布グラフでは、国語・算数のどちらも裾引き型の形状となっています。全国とほぼ同形状といえますが、国語、算数ともに、上位層が少ないという傾向があります。

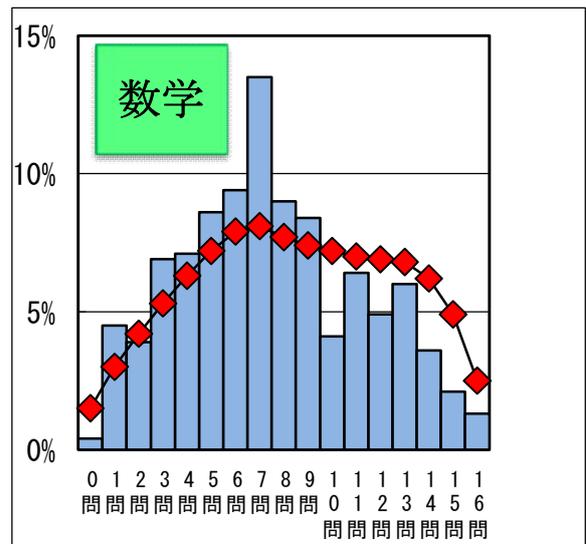
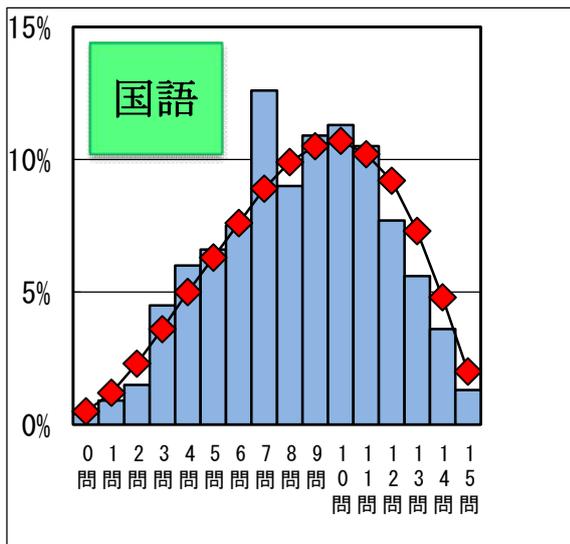
中学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	56	57	58.1
数学	47	51	52.5

【正答数分布グラフ】



平均正答率では、国語・数学ともに千葉県(公立)及び全国(公立)の結果を下回っています。国語はその差がわずかでありほぼ同程度と言えますが、数学は差が大きく著しく低いと言えます。

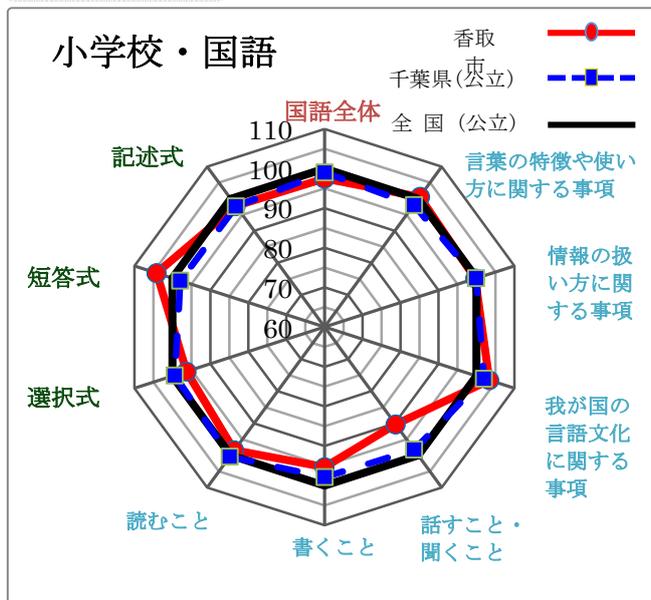
国語は、ほぼ全国と同形状になっています。数学は上位層が少なく、中位層から下位層が多い特徴があります。

(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を100として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校・国語

傾向と課題



内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を上回りましたが、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回っています。特に「話すこと・聞くこと」では、全国平均を100とした場合、香取市が90.3となる結果でした。課題であった「書くこと」が、改善の傾向が見られます。

問題形式別では、「短答式」は全国平均を上回りましたが、「選択式」「記述式」で全国平均には届かなかったものの、ほぼ同程度といえる結果でした。

課題が見られた主な問題

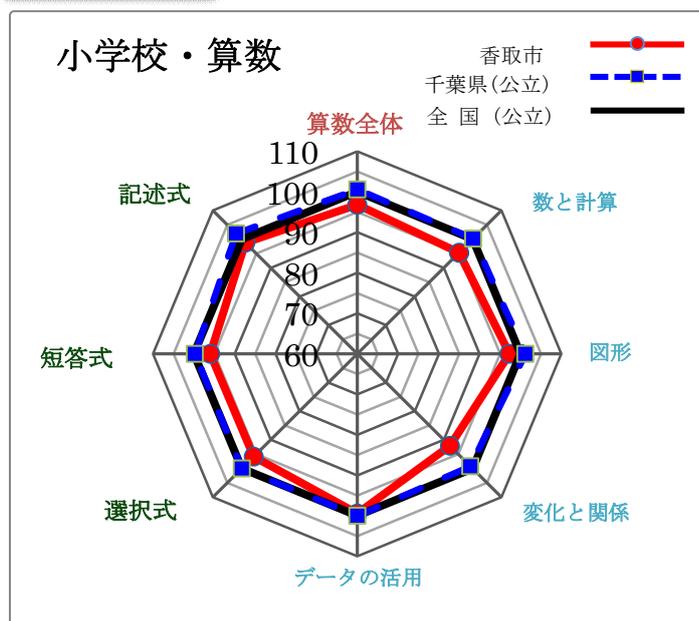
● 国語 1 二 (1)	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる 【言葉の特徴や使い方に関する事項、選択式】 [香取市 69.8% 千葉県(公立)75.5% 全国(公立)75.9%]
● 国語 1 二 (2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる 【話すこと・聞くこと、選択式】 [香取市 47.4% 千葉県(公立)50.8% 全国(公立)52.9%]
● 国語 1 三	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる 【話すこと・聞くこと、選択式】 [香取市 52.6% 千葉県(公立)63.1% 全国(公立)63.8%]

力を入れたい学習

- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが効果的である。実際に、オンライン交流等に取り組み、ICT 機器を活用するなどして学習を振り返る学習が効果的である。
- 書くことにおいて、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりして、伝えたいことを書くことが重要である。

小学校・算数

傾向と課題



領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のすべてにおいて全国平均を下回っており、特に「変化と関係」は、全国平均を100とした場合、香取市が92.8となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて、全国平均と下回る結果でした。これまで「記述式」が大きな課題となっていました。改善の傾向が見られました。

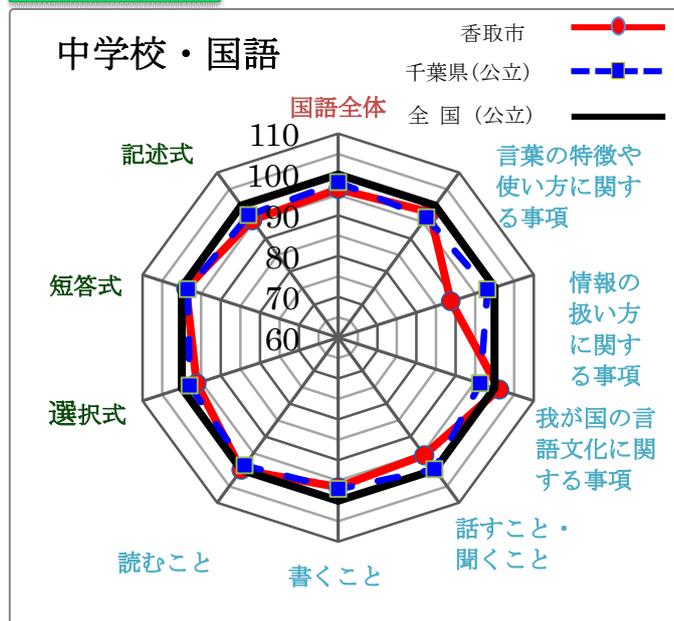
課題が見られた主な問題

● 算数1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかみる 【式と計算、選択式】 [香取市 57.1% 千葉県(公立)63.4% 全国(公立)62.1%]
● 算数3(3)	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる 【図形、短答式】 [香取市 30.6% 千葉県(公立)36.1% 全国(公立)36.5%]
● 算数4(3)	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる 【変化と関係、記述式】 [香取市 24.5% 千葉県(公立)31.0% 全国(公立)31.0%]

力を入れたい学習

- 問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが重要である。未知の数量を表すとき、記号の□などを用いるとよい。
- 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できることが重要である。例えば、速さの学習においては、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることに気付いたりする活動などが考えられる。
- 図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について筋道を立てて考察することで、実感を伴いながら図形についての理解を深めることが重要である。例えば、立体図形を見取図や展開図で表したり、見取図や展開図から立体図形を構成したりする活動や体積の求め方を考えたりする活動が考えられる。

傾向と課題



内容別では、「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を上回りました。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国平均をわずかに下回りました。「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均を100とした場合、香取市が88.8となる結果であり、大きく下回りました。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて全国平均をわずかに下回りました。昨年度改善傾向にあった「記述式」の数値が下降傾向になりました。

課題が見られた主な問題

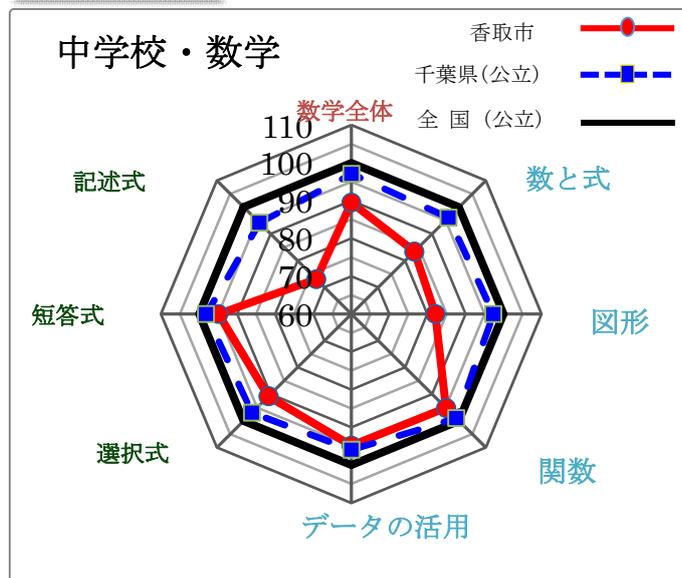
● 国語 1 三	意見と根拠などの情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 34.3% 千葉県(公立)42.8% 全国(公立)44.0%]
● 国語 2 二	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 71.5% 千葉県(公立)74.3% 全国(公立)75.2%]
● 国語 4 一	表現の技法について理解しているかどうかをみる 【言葉の特徴や使い方に関する事項、選択式】 [香取市 49.3% 千葉県(公立)50.8% 全国(公立)54.9%]

力を入れたい学習

- 話合う場面では、意見と根拠など情報と情報との関係について、正確に理解するために質問したり、資料を用いて自分の考えを伝えたり、意見と理由との関係について注意して発言を聞いたりするなど、話題や展開を捉えながら自分の考えをまとめていく活動が重要である。また、「フィルターバブル現象」が問題として問われたことから、情報を取捨選択したり活用したりする能力や筋道立てて考える能力を習得していく必要があると考えられる。
- 表現の技法（比喩・反復・倒置・体言止め）に関する知識及び技能は、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする中で、生きて働く「知識及び技能」として習得できるよう指導することが大切である。言語活動の中で、表現の技法に関する知識を意識しながら取り入れる活動が考えられる。
- 記述式問題を解答するには、文章の構成力を身に付けることが大事である。新聞等を読み手が理解できるように要約、構成し他者に伝える活動が考えられる。

中学校・数学

傾向と課題



領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて全国平均を下回っており、特に「数と式」「図形」は、全国平均を100とした場合、香取市がそれぞれ83.4、82.1となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っています。特に「記述式」は、全国平均を100とした場合、香取市が73となる結果でした。

課題が見られた主な問題

● 数学1	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる 【数と式、短答式】 [香取市 22.3% 千葉県(公立)32.6% 全国(公立)34.8%]
● 数学2	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く 【数と式、短答式】 [香取市 40.5% 千葉県(公立)49.4% 全国(公立)52.5%]
● 数学8(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる 【関数、記述式】 [香取市 9.2% 千葉県(公立)16.0% 全国(公立)17.1%]

力を入れたい学習

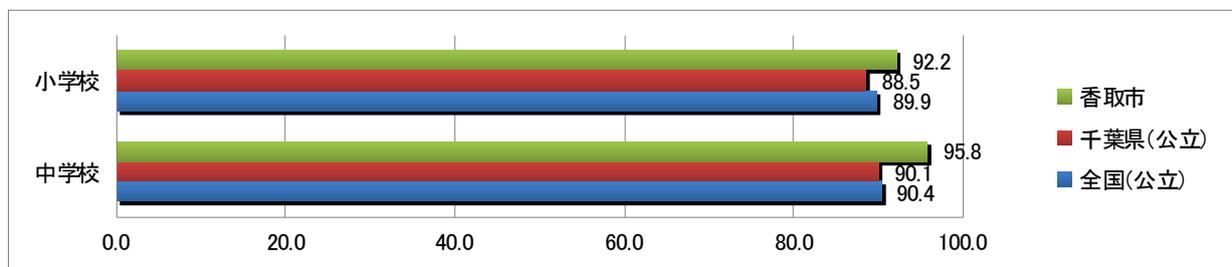
- 三角形の合同を基にして証明する問題では、予想した事項が成り立つことを論理的に考察し表現することや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。三角形の合同条件を再確認したり、文章題中にある条件を図形内に書き込んだりする活動を取り入れることが考えられる。
- 数量及び数量の関係を捉え説明する場面では、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、数量やその関係を文字を用いた式で表すことが大事である。方程式を解いたり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみて考察する場面では、等式を変形できるように練習したり、友達とその方法について話し合ったりしながら解決していく活動が考えられる。
- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、問題解決の方法について数学的に説明できることが大切である。見出す、自分で取り組む場面で、課題を明確にし、解決の方向性を創造していく活動の充実が考えられる。

7 生活習慣や学習習慣等について

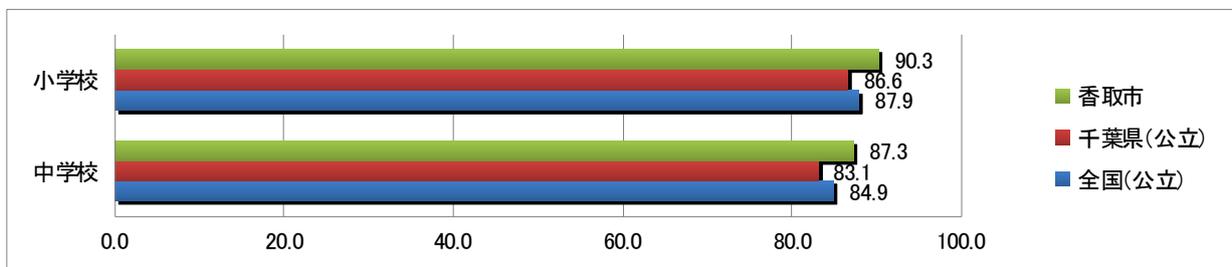
児童・生徒質問紙調査の結果から

※児童・生徒質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした児童・生徒の割合 (%)

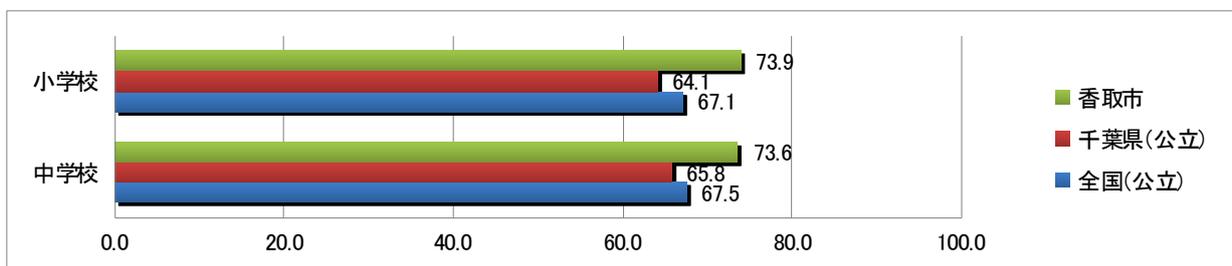
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



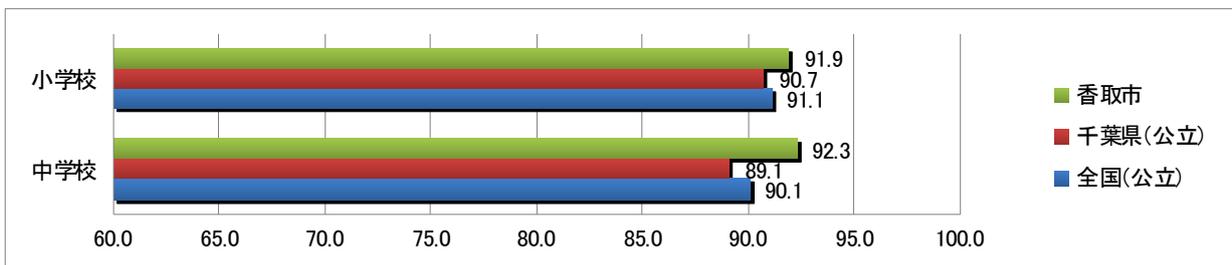
○ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



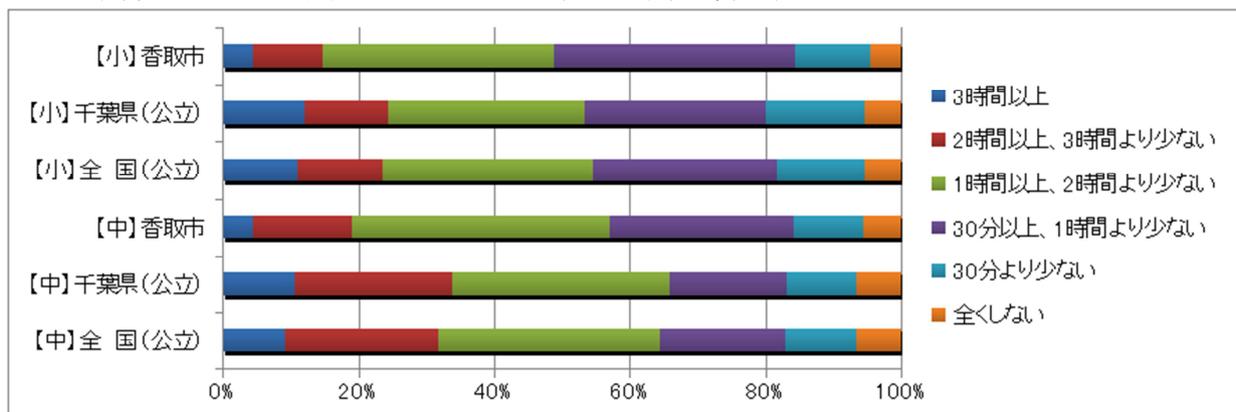
○ 友達関係に満足していますか



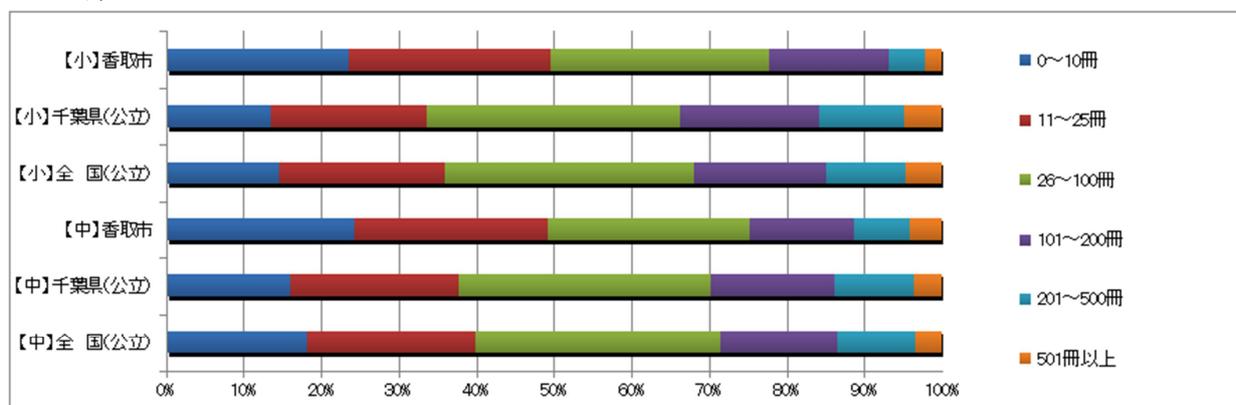
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の問いに対して、多くの項目で90%を超える児童生徒が肯定的に回答しており、児童生徒と教職員の関係は良好といえます。

また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」の問いに対しても全国や県を上回る肯定的な回答が得られ、学校生活への安心感や充実感がある子が多いと考えられます。

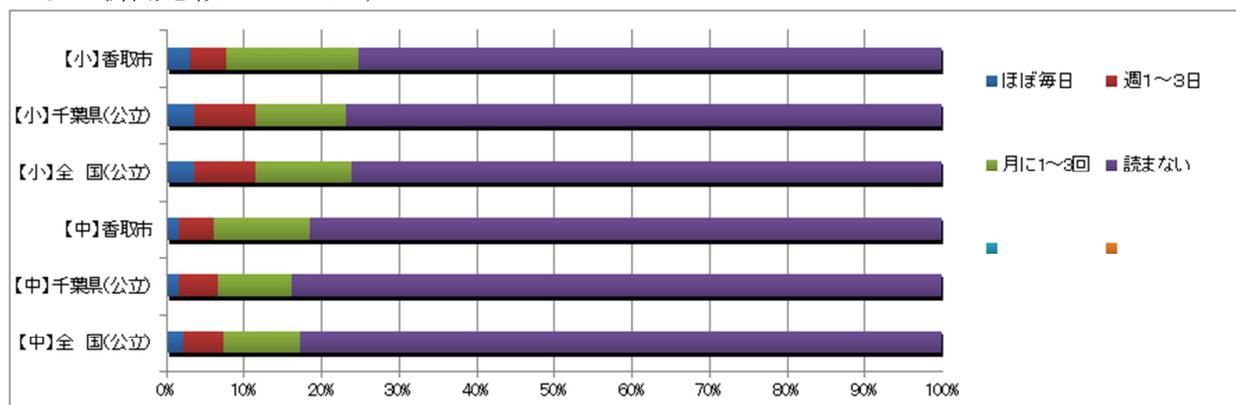
○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



○ あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

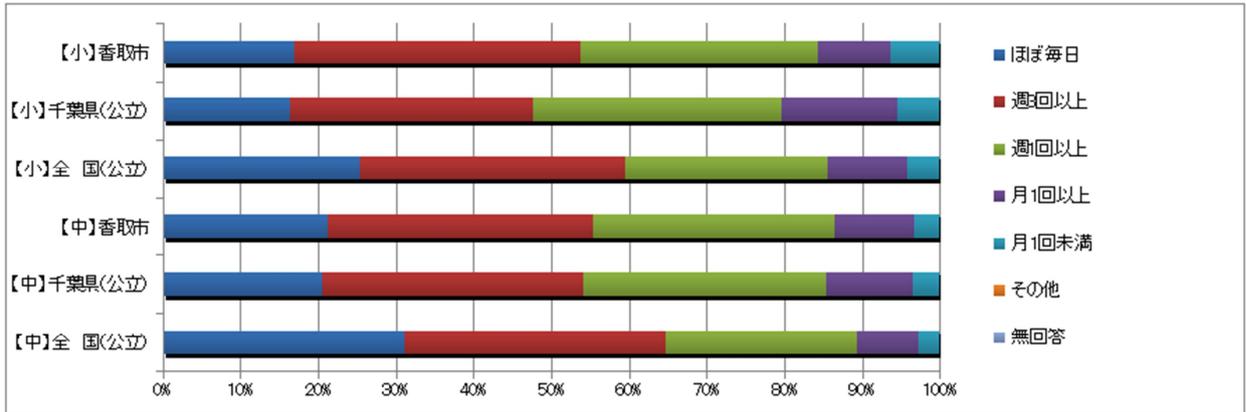


○ 新聞を読んでいますか

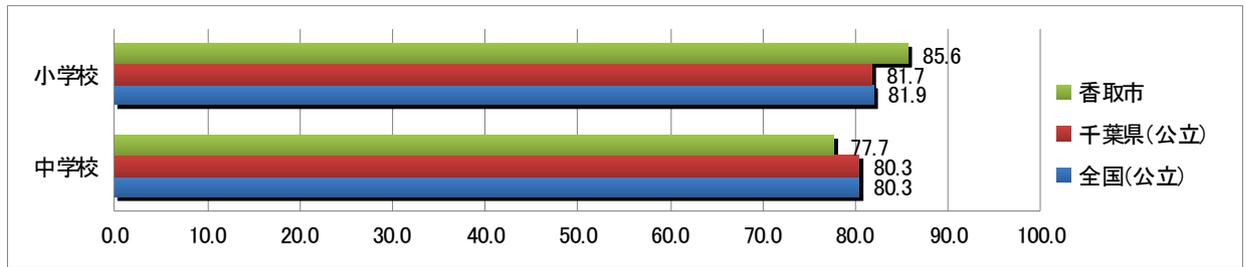


学校の授業時間以外に勉強する時間について、全国や県と比較して香取市は「2時間以上」の割合が少なく、「30分以上、2時間未満」が多いことが分かりました。本の所持数については、「201冊以上」の割合が少なく、「0~25冊未満」の割合が多いことが分かりました。新聞を読んでいるかについては、「週1~3日以上、ほぼ毎日」の割合が少なく、「月に1~3日」の割合が多いことが分かりました。

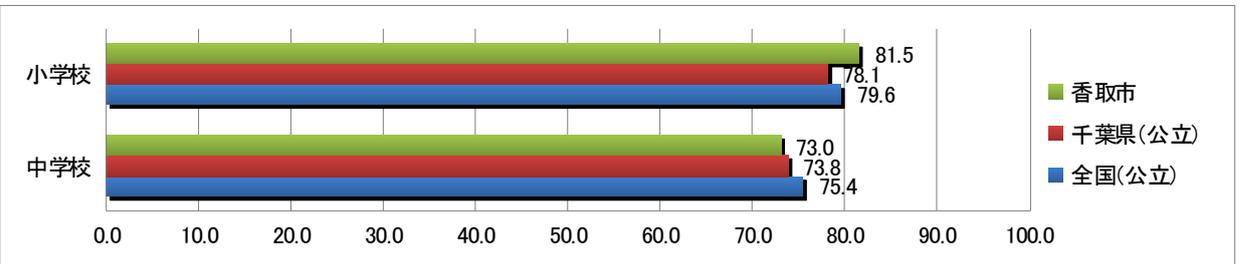
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



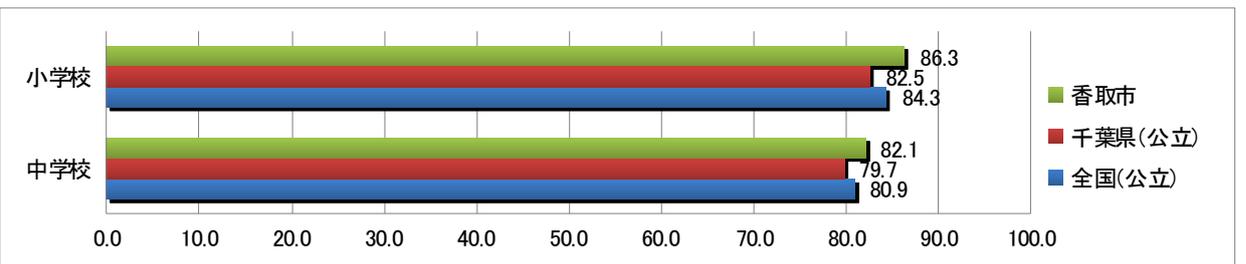
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



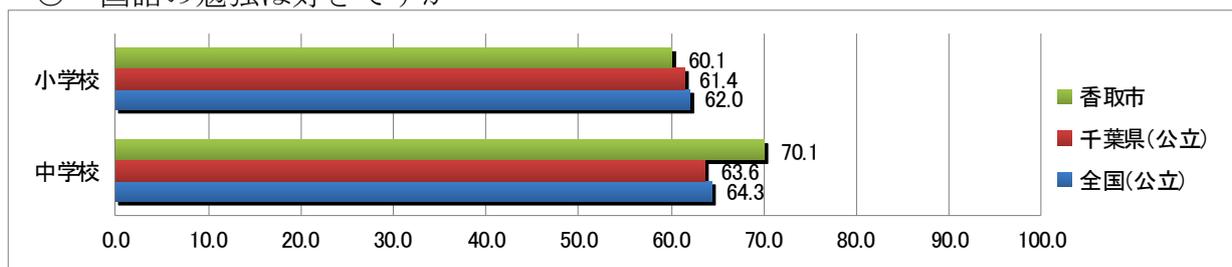
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



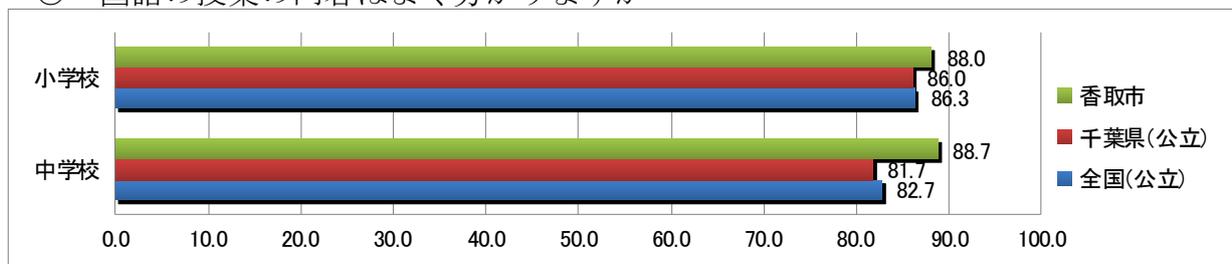
「小学校5年生・中学校2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに対し、香取市の児童は全国や県よりも高い割合で肯定的に答えており、学習への主体性の高さが分かります。香取市の生徒は全国や県よりやや低い割合ですが肯定的に答えています。

「小学校5年生・中学校2年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに対し、全国や県を上回る高い割合の肯定的な回答がありました。授業に対する満足度の高さが分かります。

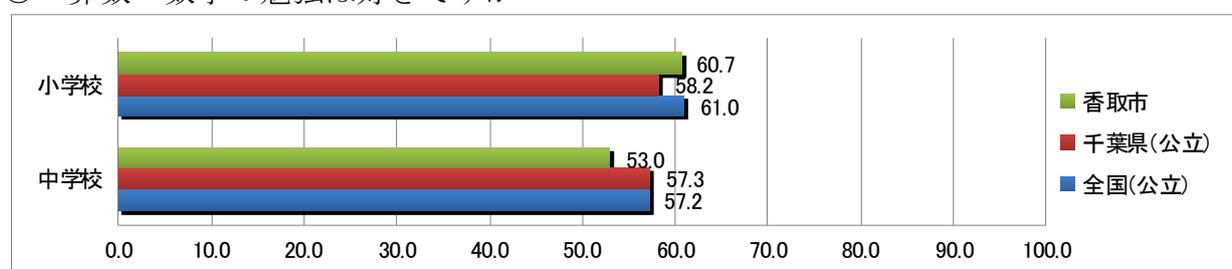
○ 国語の勉強は好きですか



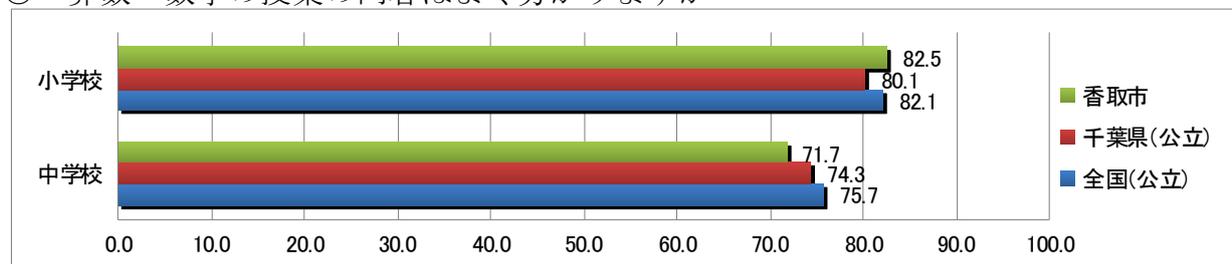
○ 国語の授業の内容はよく分かりますか



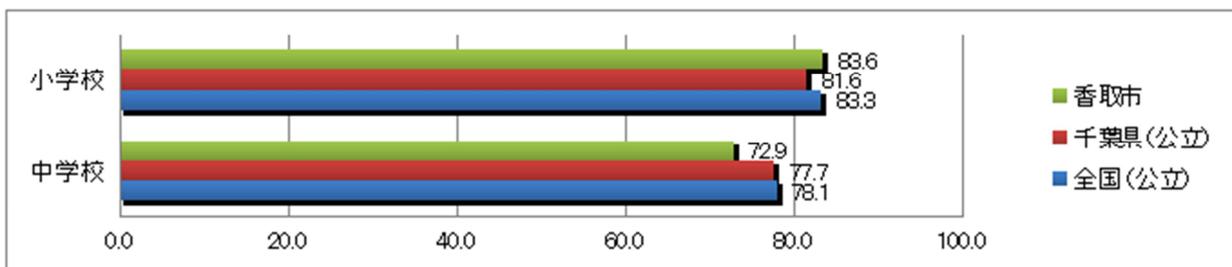
○ 算数・数学の勉強は好きですか



○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



○ 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

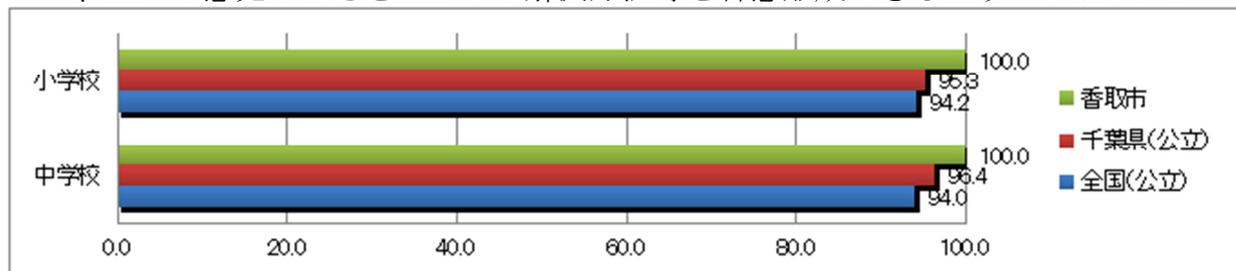


児童は、国語・算数について「好き」と答える割合が、全国や県と同程度または上回る結果となりました。生徒は、国語について「好き」と答える割合が、大きく上回る結果となりました。数学については「好き」と答える割合がやや下回る結果となりました。「授業内容がよく分かる」ことが概ね各教科の「好き」の割合に反映される結果となったことが推測されます。算数・数学では、「あきらめる」ことなく粘り強く解決方法を考えることができる力の育成が必要であると考えられます。

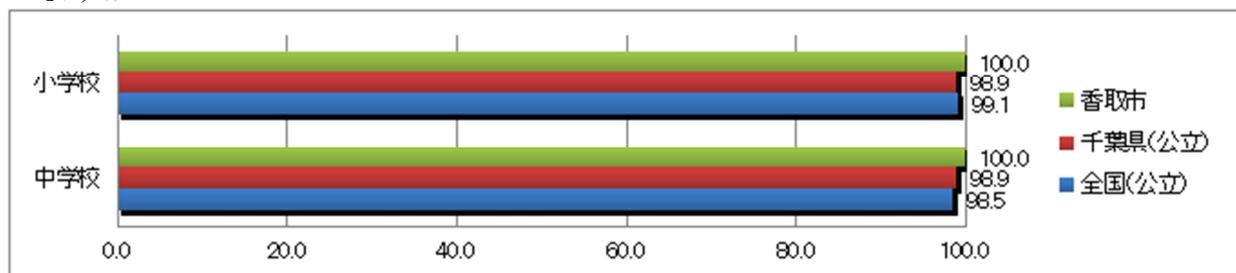
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合（％）

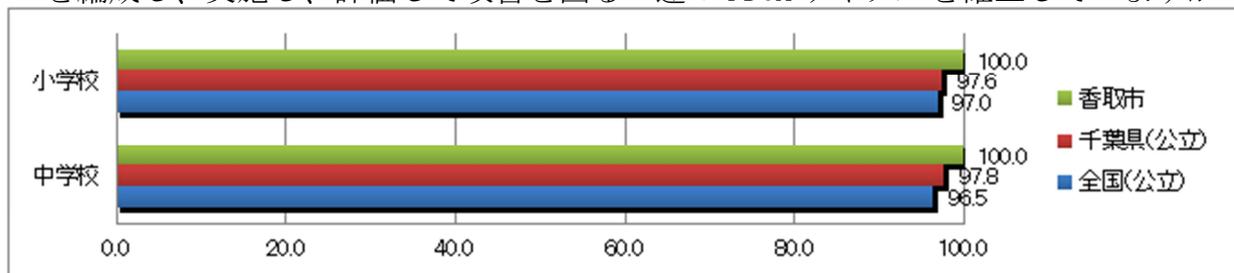
- 調査学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるようにしましたか



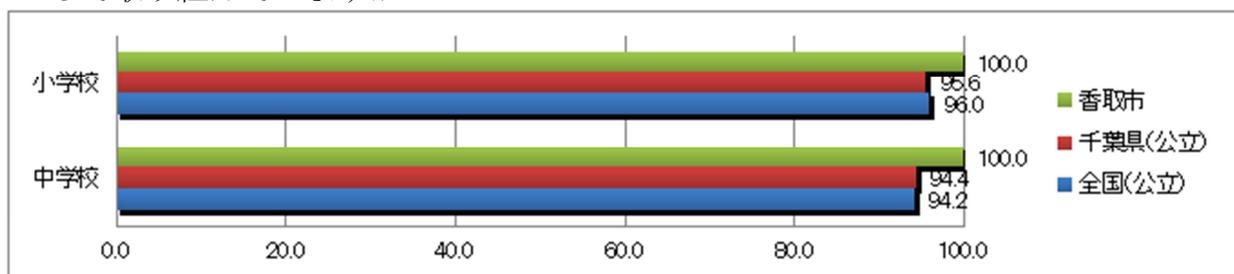
- ICTを活用した校務の効率化（仕事の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



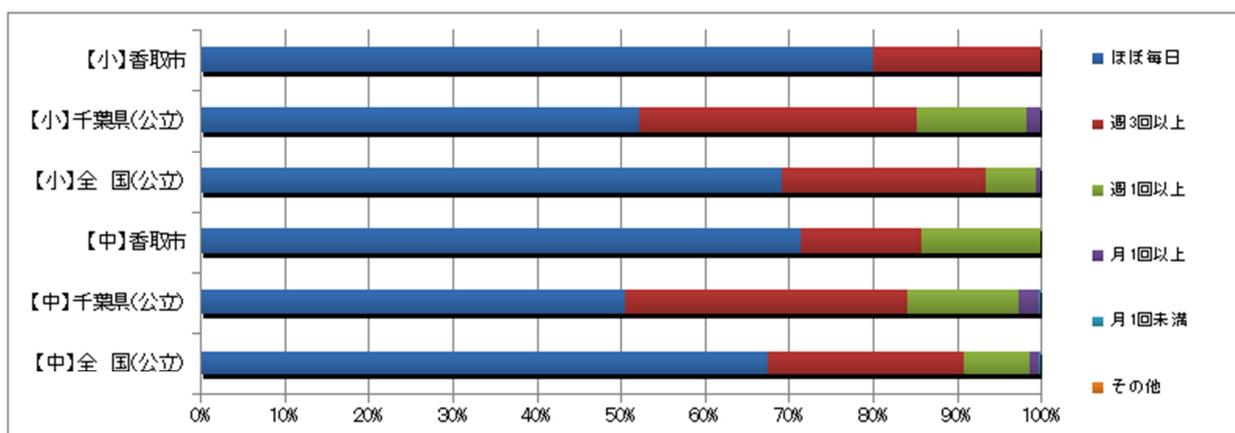
- 言語活動について、国語科を要にしつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



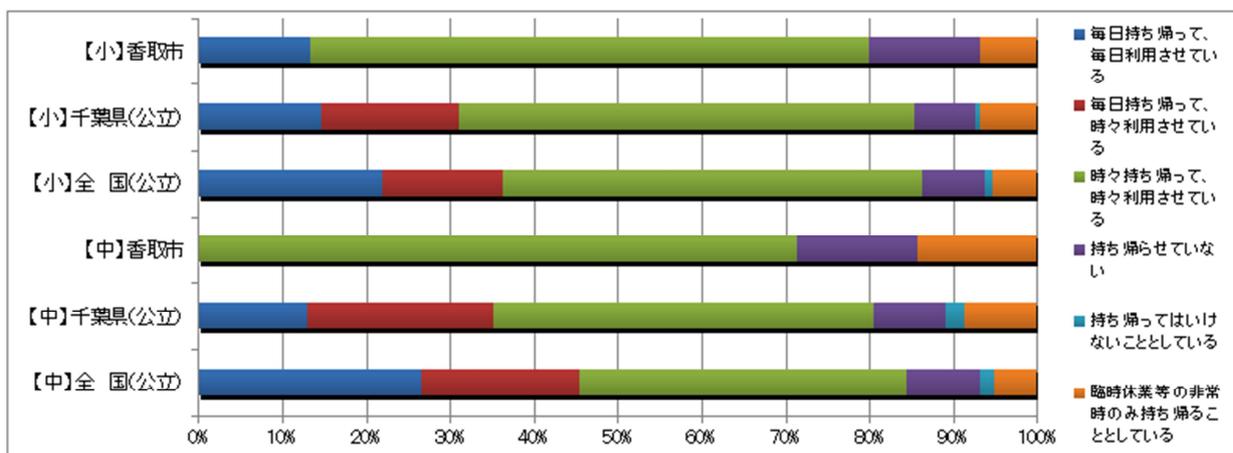
問いに対して全ての学校が肯定的に回答しており、児童生徒一人一人の良さを生かしながら合意形成を図る学級づくりや、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させている学校づくりが進められていることが分かります。

また、ICTを活用した校務の優良事例を取り入れ、業務の効率化に邁進している様子が分かります。良好な結果といえます。

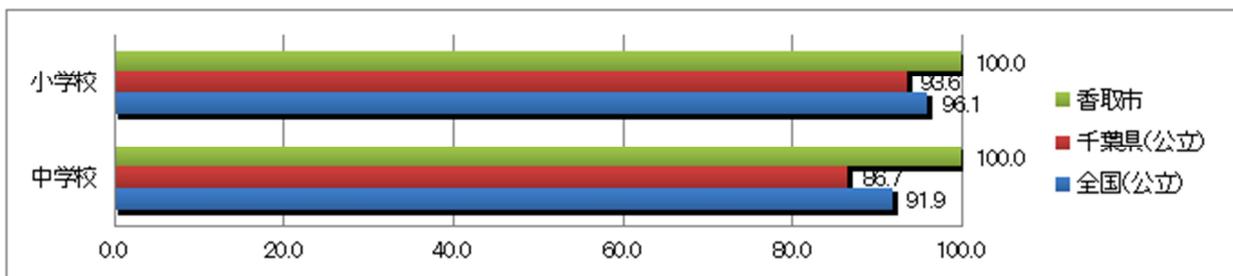
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



- 児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



授業での ICT 活用では、全国や県と比較して「ほぼ毎日」と答えた学校の割合が高いことが分かりました。ICT 機器の使用頻度の改善がみられます。

児童生徒に配備されたタブレット端末の家庭への持ち帰りに関しては、「毎日持ち帰って毎日利用している」と答えた学校の割合は低く、「時々持ち帰って時々利用している」と答えた割合が高いことが分かりました。

家庭学習の方法については、小・中学校共に具体例を挙げながらの指導が進んでいるようすが分かります。全国や県と比較して高い結果となりました。家庭学習の充実と習慣化のため、具体的かつ丁寧な指導を継続していく必要性があげられます。

教科等の重点的な指導について

◆「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善

- ・単元計画や授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」という4つの過程を意図的・計画的に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に引き続き取り組む。

◆学習の見通しをもち、「振り返り」を大切にした授業づくり

- ・既習内容や生活経験といった根拠のある見通しをもたせる工夫をする。
- ・学んだことを振り返り、「自分の言葉でまとめる」活動に徹底して取り組む。

◆個別最適な学び・協働的な学びを支えるICT活用

- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法や教材等の提供及び学習時間の柔軟な設定等をするために、積極的にICTを活用する。
- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習目標に取り組む機会等を提供するために、積極的にICTを活用する。
- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子ども同士や多様な他者とのオンラインを含む協働的な学びを推進する。

◆言語活動の日常的な充実

各教科において、児童生徒の言語活動の機会を日常的に確保するとともに、それらの表現の質をさらに高められるように以下の取組を行う。

- ・語彙を増やす活動
- ・話し合う内容の焦点化
- ・発表の仕方の工夫
- ・感想や意見を書く活動
- ・長文や物語を要約する活動

◆検証機能を大切にした「指導改善サイクル」の改善

- ・全国学力・学習状況調査の問題の内容を把握する。
- ・全国学力・学習状況調査結果の把握とその分析を行う（県分析ツールの活用）。
- ・指導改善の取組を行う。
- ・指導改善の取組結果を検証する（客観的な分析による成果と課題の明確化）。

生活習慣・学習習慣について

◆生活習慣の見直しと改善

- ・児童生徒の携帯電話やスマートフォンの長時間利用や、家庭での利用ルールの未設定などの課題に対し、情報モラルや情報リテラシー、健康の維持増進等の観点から見直しと改善を図るとともに、保護者に対して啓発を図る。

◆家庭での学習習慣の定着

- ・学校（教員）は、児童生徒の実態に合わせて、家庭学習の量や質、方法、時間などを十分検討し、内容の充実を図る。
- ・学校（教員）は、児童生徒に対して家庭での学習方法や内容の充実を図るための指導、助言を行う。
- ・学校（教員）は、保護者に対して家庭学習の啓発を図り、習慣化できるように支援する。

9 指導の重点

○文部科学省提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・令和6年度全国学力・学習状況調査 解説資料

○千葉県教育委員会提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・「全国学力・学習状況調査データ」の分析ツール
- ・学びの突破口ガイド（小学校 低・中・高学年）
- ・ちばっ子チャレンジ100（小学校 低・中・高学年）
- ・「ちばのやる気」学習ガイド1・2・3（中学校 全学年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム改訂版
（小学校1年～中学校3年）

○千葉県教育委員会では、家庭学習の充実をめざし、さまざまな視点から自らの学びを築くためのヒントをホームページに掲載しています。

対象は、児童生徒のみなさんや保護者の方々、そして学校の先生方です。

下記URLを参照して、家庭で、学校でご活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>

○香取市教育委員会では、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」を作成し、全小中学校の児童生徒を通して全家庭に配付しています。